

## 「(仮称)けいはんな地域 SNS」立ち上げへの参画のお誘い

### けいはんなで地域 SNS を立ち上げましょう

現在、けいはんなのまちづくりに関わる人たちが中心メンバーとなって勉強会を重ね、実際に自分たちの手で SNS の試験運用を行っています。そして、けいはんな地域 (関西文化学術研究都市を構成する 8 市町・京田辺市・精華町・木津川市・枚方市・交野市・四條畷市・奈良市・生駒市) に住む人や働く人を対象とした地域 SNS を立ち上げてみようという取り組みを進めています (2007 年 5 月時点で 41 名の参加)。

現在の画面イメージ



### どうしてそんなことを始めたの？

この勉強会が始まったキッカケは、昨年 (2006 年)、代表の藤田氏 (大学のまちづくりの研究者) が大手 SNS の「mixi (ミクシィ)」が持つコミュニティ形成力の可能性に気付き、「地域密着型 SNS はきっとまちづくりの実践に役立つはず！」という直感を抱いたことになりました。以来、都市計画から住まいや生活の科学など、広くまちづくりに関わる研究者たちと「まちづくりと Web2.0 研究会」を立ち上げ、ここ「けいはんな」の地元で社会的な実証をしたいと仲間呼び掛け始めました。

この呼び掛けに対し、日頃から「近所の底力」(「地域力」)を高めたいと願っている主婦や、学研都市の推進、地域政策の研究などに関わる人たちが、最初は「しよせん、SNS なんて、どんなに広まっても 2 割の普及率」、SNS のコミュニケーションでは思っていることの 2~3 割しか伝わらない、「あくまでリアルのお付き合いが大事だ」とブツブツ言いながらも、「たかが SNS、されど SNS」、この取り組みを通じて、もっともっと交流・連携の輪が広がればいいな」と藤田氏の直感への共感が広がっていきます。

### で、何が目的なの？

研究のために立ち上げ、有志の仲間内で楽しむだけで終わるのもいいのですが、せつかくある程度の仕組みも出来上がってきたので、次のことに取り組んでみたいかと考えています。

地域活動を盛んにする補助ツールとしての実証

- ・ 自治会単位での子ども会やまちづくり協議会など、地縁団体内での補助ツール利用
- ・ 小学校区単位での複数自治会による広域的コミュニティ形成促進の取り組みにおける補助ツール利用
- ・ 新規に立地した中小ベンチャー企業の経営者や従業員で新たな自治組織を立ち上げていく取り組みにおける補助ツール利用

### 交流・連携を促進する補助ツールとしての実証

- ・ 各種の市民活動団体など、機能団体内での補助ツール利用
- ・ 地域 SNS の利用促進に取り組む IT 系市民活動の成立
- ・ 市民活動団体同士をつなぐ交流・連携イベントでの補助ツール利用
- ・ 市民と研究者間の日頃の交流・連携を促進する新たなシステムづくりでの補助ツール利用
- ・ けいはんな学研都市の広域的一体性形成につながるような連帯感づくり

## 最終的に、どうなるの？

地域活動や交流・連携を促進し、市民が主体のまちづくりの動きを加速させること、そして、本当にこの地域に住んでいて良かったと幸せが実感できる地域づくりには、日頃のコミュニケーションを活性化して信頼と善意に基づいた人と人のつながりを深めることが重要で、言わば地域全体の社交性を向上させることが不可欠だと考えています。そのために、この地域 SNS というツールが役立つかどうかを試すことができると考えています。むやみに参加者数を増やして規模の拡大を狙ったりはせず、むしろ、丁寧に、一つひとつの取り組みを、それぞれそれぞれのペースで進めています。

けれど、結果として、地域 SNS がある一定規模となり、それぞれの諸活動にとって不可欠なツールとなるなど、SNS の運営自体に社会的責任が発生してしまう可能性も考えられます。その際には、参加者のみなさんの総意によって、公共性のある運営主体づくりが必要になると考えていますが、現時点では、当分、そこまでには至らないと考えています。

つまり、この先どうなるかは、わかりません。

## ご参加くださいますか？

以上がこの試みの簡単なご説明です。まだ正式名称は決まっていませんし、利用規約やプライバシーポリシーも決めていない立ち上げ準備段階です。操作マニュアルも用意できていません。それらは、今後、立ち上げに参加されるみなさん自身の手でつくあげていただきたいと思います。もちろん、正式発足までの間も、最低限のルールづくりや個人情報の保護の取り組みは行われています。

このような段階ですが、どうか、みなさんそれぞれのお立場から、ご自身の地域活動や市民活動に役立て、交流と連携を深めることができるよう、一緒に立ち上げにご参画いただければ幸いです。

参加方法は簡単です。既に、この地域 SNS に参加 (ログイン) しているあなたの知人から招待メールが届くでしょう。そのメールに書かれている内容に沿って入会手続きの操作をしていただくことで参加できます。

どうか、よろしくお願いします。

## 解説

「SNS」とは(フリー百科事典「ウィキペディア」から)

SNS とは人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービスである。あるいはそういったサービスを提供する Web サイトを指す。

SNS の中心であり主目的は、人と人とのコミュニケーションにある。友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供している。

人のつながりを重視して「既存の参加者からの招待がないと参加できない」というシステムになっているサービスが多いが、最近では誰でも自由に登録できるサービスも増えている。代表的な SNS として日本最大の会員数を持つ mixi、世界最大の会員数を持つ MySpace などがある。

又、2004 年頃より大手企業各社でも社内でのコミュニケーションの活性化や内定者囲い込み、SOX 法対策等にも使われはじめており、有名な事例としてはジョンソン & ジョンソン、NTT 東日本の社内活用や、総務省の省内活用があげられる。

「Web2.0」とは

インターネットは米国での軍事ネットワークや研究機関のネットワークを相互に接続したことから始まったもので、1990 年代中頃に商業利用が進むにしたがって、広告メディアとして、さらには商取引の通信基盤としての利用が広がりましたが、不正侵入などネットワークの安全性の問題が大きく取り上げられるようになりました。

また、個人での利用も進むにつれ、コンピュータウイルスの蔓延や個人情報漏洩事件が社会問題となるなど、「インターネットは危険なもの」というイメージが絶えずつきまといました。その結果、特に日本では、知人同士一対一のメッセージのやりとり以外、匿名での情報発信やコミュニケーションが主流となり、誹謗や中傷、さらなる個人情報漏洩、犯罪利用という悪循環が懸念される時期もありました。

21 世紀に入ると、情報セキュリティ技術の向上と個人情報保護の法整備が進んだ結果、インターネット上において、安全なコミュニケーション方法を用いて、自らの個人情報を守りながら、多くの人との交流や信頼の向上を仕事やプライベートに役立てたいという願いがようやく実現できるようになってきました。

現在、「『Web2.0(ウェブにてんぜろ)』の時代に入った」と言われています。「第二世代のインターネット活用」という意味ですが、いまや多くの人がブログ(インターネットの日記)を持ち、積極的に情報発信が行われ、個人による発信情報が新たな社会潮流を生み出すまでになりつつあります。

ブログの発達は、かつてのインターネット上の掲示板のように、匿名性で無責任なものではなく、本名性が重要視される方向に向かっていて、ブログ記事に対するコメントも励ましや応援スタイルのものが多く見られます。また、お互いのブログ記事同士を相互にリンクして表示する機能(トラックバック)なども広く用いられるなど、今までの静的なホームページとは比べ物にならないほど、多様なコミュニケーションが活発に行われるようになり、人と人の交流の輪を広げることができるようになりました。

また、こうした信頼と善意に基づいたコミュニケーションによる「Web2.0」のメリットとして、フリー百科事典「ウィキペディア」のような膨大な「集合知」が得られることにも関心が高まり、人々の積極的な参画と協働によって、平和で民主主義的かつ創造的な風土の醸成に役立つものと期待されています。

こうした流れの中にあっても、それでも、いきなりインターネットで情報発信するのは怖い、でも、たくさんの人とコミュニケーションはしたいし、交流の輪も広げたいとい、そん

なシャイな傾向の強い日本で爆発的に普及したサービスが、「mixi(ミクシィ)」に代表される SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)です。

SNSの多くは、完全招待制度を採っていて、いわば「閉じた空間」になっています。自分を招待してくれた人や自分が誘った仲間、つまり現実の良好な人間関係を大切にしながら、インターネットの常時接続性を生かし、安心して利用できる SNS 内限定のブログやコミュニティ掲示板を使って、ふだんのコミュニケーションを活性化させる補助ツールとして用いることができます。

ところが、「mixi」は既に登録者数が 1000 万人に近づく巨大ネットワークへと成長し、既に「閉じた空間」ではなくなっています。登録者数が多いぶん、幼なじみを探し当てたり、思わぬ出会いの可能性があるほか、膨大な記事数と優れた検索機能により、一定の信頼性ある情報を探し出すこともできるというメリットはあります。

こうした状況のなか、より「顔の見える」地域限定の「地域 SNS」が注目され、各地で様々な中小規模 SNS が立ち上げられつつあります。

## 呼びかけ人一同

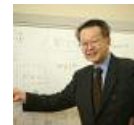
藤田 忍 (FUTAN)

代表、大阪市立大学大学院教授、奈良市在住



西村 一郎 (ichiro)

平安女学院大学教授、精華町在住



水野 義之 (水野)

京都女子大学教授、茨木市在住



木戸 明美 (スギ)

フィナンシャルプランナー、木津川市在住



杉原 五郎 (ごろちゃん)

(株)地域計画建築研究所取締役副社長兼大阪事務所長、木津川市在住



鵜飼 雅則 (とり)

財団法人関西文化学術研究都市推進機構調査役、京都市在住



岩橋 威夫 (けたお)

システムの運用担当、精華町役場職員、枚方市在住



(文責 岩橋 威夫)